

## I 繫小中学校区の概要

繫地区は盛岡市の西方に位置し、昭和30年に御所村（現雫石町）から分離して盛岡市に編入した。御所湖を挟んだ南東側には「盛岡の奥座敷」といわれる温泉地として古くから親しまれている繫温泉を抱え、県内外から多くの観光客を迎えている。

御所ダムは昭和16年に計画、昭和42年着工、水没世帯数は520世帯を数え、昭和56年10月には竣工した。平成17年にダム湖百選に選定され、国土交通省・水資源機構所管のダム湖の中で年間湖面利用者が第1位となっている。

平成23年7月末現在の地区の人口は875人、世帯数は383世帯で、近年の人口及び世帯数の増減については、ほぼ横ばいとなっている。

昭和50年に繫町内会が発足し、町内の諸行事（御所湖まつり、運動会等）が活発になり、親睦を図っている。昭和53年の東北自動車道、昭和57年の東北新幹線開業に伴い、温泉等への利用が増えた。

御所湖広域計画の推進により御所湖を中心に県立御所湖広域公園が整備された。県民が利用することを目的にレクリエーション施設として、ファミリーランド、乗り物広場、つなぎスイミングセンター（現在休止中）、尾入野湿生植物園、さくら園、塩ヶ森水辺園地、野菊公園、御所大橋運動場等が開園されている。

学区は、御所湖をはさんで、南側の温泉地区から北ノ浦、北側の尾入野に分かれており、子ども会の地区割りは繫地区、尾入野の2地区となっている。

学校の創立は、明治8年、民家を借用して創立された。昭和22年、御所村立繫小学校と改称、御所村立御所中学校創立、昭和30年10月繫地区が盛岡市に編入され、盛岡市立繫小学校、盛岡市立繫中学校と改称された。

昭和53年には隣接する盛岡市つなぎ幼稚園が開園しており、行事等を通じて幼・小・中の交流が行われている。

繫小在籍数

学年	男	女	計
小1	1	3	4
小2	0	3	3
小3	5	2	7
小4	2	4	6
小5	3	4	7
小6	2	4	6
計	13	20	33

繫中在籍数

学年	男	女	計
中1	4	0	4
中2	3	4	7
中3	8	4	12
計	15	8	23

### ・最近の児童生徒の推移

年度	S51	S56	S61	H3	H8	H13	H18	H19	H20	H21	H22	H23
小学校	101	102	74	76	30	43	53	46	48	39	35	33
中学校	48	39	47	41	40	12	17	28	23	35	24	23

※ 小学校では昭和55年に107名、中学校では昭和59年に62名のピークを経ている。小学校では平成8年、中学校では平成13年に最も減少している。

※ 現在の児童生徒56名、PTA世帯数は38世帯である。

## Ⅱ 平成23年度繫小中学校区教育振興協議会活動計画

実践主題 『 みんなで育てよう健全な心と体 』  
 ～地域の活動や行事を通して～

### 1 学校区の教育課題

#### (1) 地域・保護者

- ・ 家庭や地域の一員としての役割を自覚し、実践活動を通して、家庭や地域教育力を高める。

#### (2) 児童・生徒

- ・ 郷土を愛し、誇りをもって伝承活動や地域行事、ボランティア活動に積極的に取り組む。

#### (3) 学校

- ア 基礎的・基本的な学習内容を確実に身につけさせる。
- イ 基本的生活習慣の確立のため、指導の徹底を図る。
- ウ 家庭や地域との連携を深め、福祉教育や環境教育の推進を図る。

### 2 活動内容

#### (1) 児童・生徒の心身ともに健全な育成

- ア 基本的生活習慣の育成、保健日より、学級通信等による啓蒙活動、生活習慣病予防の取り組み

- イ 児童会、生徒会による「あいさつ運動」の取り組み、地域行事への参加（運動会、清掃活動、盆踊り、敬老会等）、高齢者との交流会

#### (2) 「つなぎさんさ太鼓」の伝承活動への取り組み

- ・ 地域の指導者を招いての太鼓練習、地域行事での活動披露、「盛岡さんさ踊り」出演

#### (3) ボランティア活動への取り組み

- ・ 御所湖周辺の清掃活動、地域の環境美化活動、独居老人宅周辺の除雪

### 3 本年度努力目標

地域の一員として、活動や行事に積極的に参加し、読書活動の環境づくりに取り組む。

### 4 実践活動（盛岡市教育振興運動第10次5か年計画から）

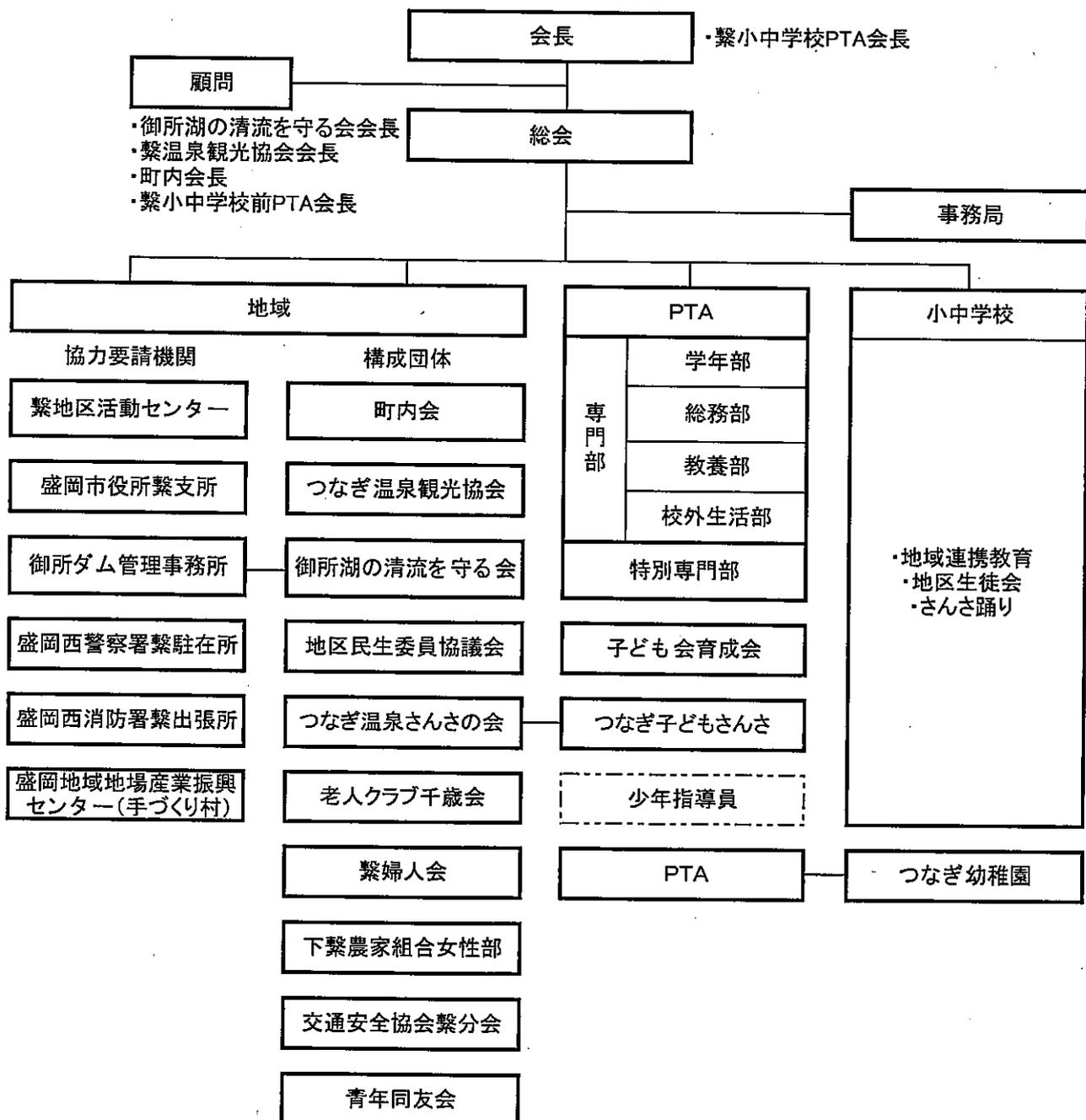
みんなで読書に取り組もう

	児童生徒	家庭	地域社会	学校	行政
学力向上	進んで読書して心を耕そう	読み聞かせや読書に取り組む	読書環境を整備する	読書指導を充実する	読書の環境や情報を提供する

	児童生徒	家庭	地域社会	学校	行政
健全育成	郷土の先人や自然とふれ合おう 郷土の歴史や文化とふれ合おう	郷土の先人や自然とのふれ合いを奨励する 郷土の歴史や文化とのふれ合いを奨励する	郷土の先人や自然、歴史や文化とのふれ合いへの支援・協力をする	郷土の先人や自然、歴史や文化を教え、ふれ合う活動への参加を勧める	読書の環境や情報を提供する
健康安全	家での過ごし方を考え生活リズムを整えよう	家での生活リズムを確立する	生活リズム確立のための環境づくり	学校での生活リズムを確立する	

## 5 本校区教育振興運動の組織

### 教育振興協議会（組織図）



### Ⅲ 繫小中学校区における実践

#### 1 繫小中学校区教育振興協議会における連携

##### (1) 「つなぎ子どもさんさ」の取り組み

昭和59年、伝統さんさ踊りの継承に取り組み始め、昭和60年「盛岡手づくり村」開村式への出演、6月の運動会において借り集めた太鼓によるお披露目を行って以来27年間、四半世紀余り継続して取り組んでいる。当時、指導を受けていた小中学生は保護者となり、現在は孫世代への継承という段階になっている。

学校では、総合的な学習の時間等を活用し、週1回の指導を受け、小中学生が「さんさ太鼓」の練習を重ねている。

「御所湖まつり」、「盛岡さんさ踊り」などの直前には、休日にも練習時間を設定し取り組んでいる。小学校3年生の秋から太鼓の練習が始まり、6年生までの4年間ですべての曲を覚えるように年間を通じて計画している。

練習では、地域の指導者である桐野英二氏が作成した繫独自の楽譜を用いている。この楽譜は、桐野氏が苦勞して採譜して作り上げたものであり、15曲が蓄積されている。練習を正確に効率のよいものとして進められるのもこの楽譜によるところが大きい。

練習の成果は、5月の運動会、7月の「御所湖まつり」、8月の「盛岡さんさ踊り」、9月の敬老会等への出演を恒例としている。

各種のイベント等にも招かれ演技をしているが、昨年は、「全国中学校総合文化祭福岡大会」に岩手県代表として参加している。

「御所湖まつり」、「盛岡さんさ踊り」への出演や各種のイベントには、正装のさんさ装束で臨んでいる。事前に地域の方を講師に招いて着付け教室を行っており、各家庭で装束の着付けが行われ「さんさ装束の着付け」も継承が図られるよう取り組んでいる。また、昨年度「いわてコミュニティ・スクールステップアップ事業」助成金により「着付け」から楽譜、踊り等を収録したDVDを作成しており、貸出のできる視聴覚教材として活用し、継承に役立てられるようにしている。

つなぎ子どもさんさの会「繫さんさ太鼓」より  
「さんさ楽譜」

平成23年度 さんさ活動計画	
4月	太鼓合わせ、太鼓練習開始式
5月	運動会での演技
7月	着付け教室、「御所湖まつり」参加
8月	「盛岡さんさ踊り」出演
9月	法悦園訪問、長寿を祝う会（地区敬老会）、太鼓入門式
10月	太鼓練習納め式



「つなぎ子どもさんさDVD」

「いわてコミュニティ・スクールステップアップ事業」 DVD収録内容		
DISC 1		DISC 2
〈着付け〉 ・合わせ～帯まで ・腰帯の折り方 ・腰帯の付け方	・腰帯の結び方 ・たすき ・笠	全国中文祭ステージ (H22.8.20)
〈太鼓楽譜〉 ・歩き拍子 ・つなぎ一拍子 ・つなぎ二拍子 ・つなぎ三拍子	・はやしまいくずし ・つがい踊り ・お礼踊り	〈御所湖まつり〉 愛真館前 (H22.7.25) 四季亭前 (H22.7.25) 大人さんさ (H22.7.25)
〈踊り〉 ・通し ・はやしまいくずし ・つがい踊り		〈盛岡さんさ踊り〉 伝統さんさ競演会 (H22.8.3) 盛岡さんさ踊り (H22.8.3)

着付け教室主催の他、「盛岡さんさ踊り」への出演には、PTAが総出で食事の手配から輸送を行っており、「つなぎ温泉さんさの会」等の協力を得て昭和63年より24年間出演を続けている。

さんさ太鼓の継承活動を通じて、地域の伝統文化を継承する気持ち、郷土への理解と郷土を愛する心、目上の方への礼儀など様々な姿勢や態度を身に付けてきている。

### 「子どもさんさ」

小学校太鼓リーダー 中6年 徳田 佳奈

私は今年、太鼓リーダーとして御所湖まつりや盛岡さんさ、敬老会に出ました。

小学校だけで練習する時、これまで指示をすることがあまりなかったので、指示を出すことに慣れるのが大変でした。

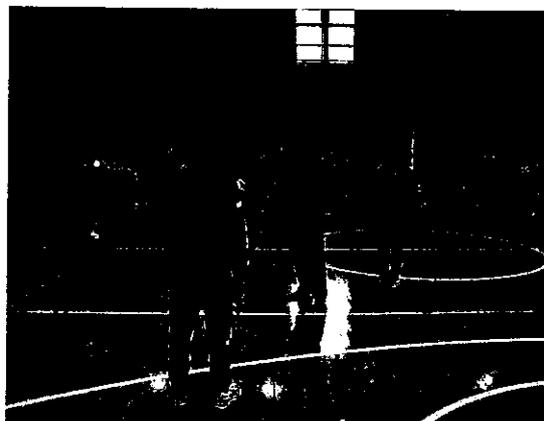
盛岡さんさの時、周りに他の団体の上手な人達がいっぱいて、ときどきしました。しんさ員の前では、手をしっかり上げて、他の団体に負けないように大きな声でかけ声をしました。

敬老会では、お年よりの方々の前で堂々と太鼓が打って良かったです。発表が終わってもどる時、拍手をしていただいたのでとても気持ち良かったです。みんなに指示が通っていたか心配だったけれど、みんなが指示を聞いてくれて良かったなと思いました。

来年は中学生としての参加になるので、マリオスの発表があります。もっとたくさんのお客さんに喜んでもらうために、中学校入学までに復習をしておきたいです。新しい踊りもしっかり覚えたいです。



「さんさ入門式、桐野氏よりバチの贈呈」



「さんさ練習風景」

「子どもさんさを振り返ってみて」 中学校太鼓リーダー 中3年 桐野 航平  
 これまでを振り返ってみれば月日が経つのは早く、小3の時のさんさ入門式から始まり、運動会、御所湖まつり、盛岡さんさなど、毎年沢山の行事や授業の中でさんさをしてきました。学年が上がるごとに色々なさんさの種類を体で覚え、中学生にもなると太鼓や踊りを覚えていないことが恥ずかしく思えるほどでした。

中2の時には、県中文連の代表として福岡の博多でさんさ踊りを発表することになりました。さんさの練習で毎日きつかったのですが、その分発表しても恥ずかしくない立派な演技をできるようになりました。いざ本番となると緊張しましたが、この発表は今までで一番良い演技をすることができ大成功でした。

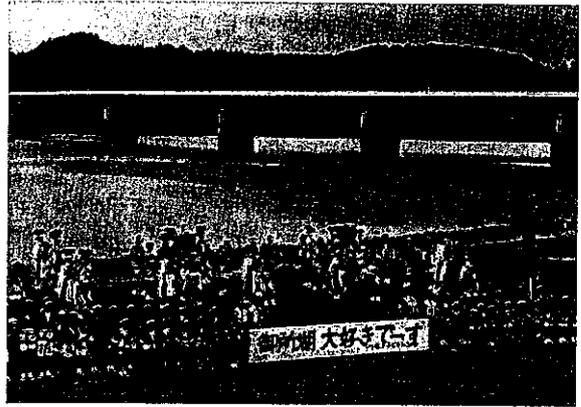
この福岡での演技がさんさ踊りの中で最も記憶に残るものとなりました。中3なのでもう引退となりますが、さんさ踊りを続けてきて良かったと思います。

平成23年度「つなぎ子どもさんさ踊り」活動について アンケート集約からの抜粋  
 (PTA会員数38名中、回答数27名 回答率71.1%)

◆「御所湖まつり」について	◆「盛岡さんさ踊り」について	◆その他、さんさ伝承活動に関して
<ul style="list-style-type: none"> <li>・みんな練習の成果が出せて、良かったと思います。学年部の方々の働きには頭が下がります。子供とお祭りを楽しむ時間はありませんでしたが、参加する事で楽しめました。</li> <li>・30周年ということもあり、震災のあった年だったが、参加できて良かったのではないかと思います。</li> <li>・地域の方や観光の方に喜んでもらえたと思います。</li> <li>・低学年の子供達が大きな声で掛け声を掛けていました。</li> <li>・低学年は声出しでしたが、娘も早く太鼓をたたきたいようでした。</li> <li>・昨年、教養部主催の家庭教育学級で、さんさ踊りの講習会があり参加しました。それがきっかけで、今年はPTAからも踊り手の参加がありとても良かったと思います。</li> </ul> <p>子供達と一緒に、地域に伝わる伝統芸能の継承活動の一員になれた気がしました。御指導して下さいました。小学生が頑張っていたと思います。4年生の一生懸命さが良かったです。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今回は裏方のお手伝いをさせて頂いたのですが、本当にたいへんだと思いました。みんなで協力しあっているからこそ、この伝統が続いているのだとあらためて思いました。</li> <li>・連日の暑さが続く中、子供達も元気で何事もなく無事終える事ができて良かったと思います。滝の広場では、毎年見て下さる方々がたくさんいる中で、良い演技が出来て良かったと思います。</li> <li>・私は、準備に参加できませんでしたが、来年は参加できるよう調整したいです。地域、学校、PTAが一つになって参加するお祭りですので、達成感があるのではないかと思います。</li> <li>・夜までの長丁場で大変ですが、地域の皆さんと力を合わせて頑張っていたと思います。着付け、食糧の分配など、お手伝い感覚で参加できて良かったです。</li> <li>・学年部の皆さん各役員の皆さん本当にお疲れさまでした。今年、2回目の盛岡さんさに出ている自分の子を見て、今年は昨年より表情も柔らかく、「楽しんでいるなあ」と感じました。仕事の関係でお手伝いできませんでしたが、関係者の皆様に支えられ、子供達はのびのびと披露できたのではないかと思います。本当にありがとうございます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子供達のためにも、今後も続けて行けたら良いと思います。</li> <li>・この地域に住んでいるから出来る活動であり、続けてほしいと思う。</li> <li>・これからもぜひぜひ続けてほしいです。小さい学校だからこそできることだと思います。</li> <li>・伝承活動は続けていくべきだと思う。さんさ踊りは子供達の財産になると思う。</li> <li>・これだけは「誰にも負けない」という一つにしてほしいです。</li> <li>・つなぎの伝統さんさ、太鼓は子供たち中心ですが、踊りは親や地域の人など、たくさんの方が覚えて行った方がよいと思います。なかなか覚えるのは難しいですが。</li> <li>・是非、子供達と一緒に「伝統さんさ」やってみてはいかがですか？踊りはちょっとという方は太鼓でもいいのでは？なかなか良い親子関係ができますよ！</li> <li>・伝統さんさは素晴らしいと思いますが、やっぱり人数減少が問題になると思います。</li> <li>・子供たちのためにも、地域のためにも、頑張ってください。桐野氏をはじめ、さんさの会の皆さんに感謝しています。</li> </ul>



「御所湖まつりパレード」



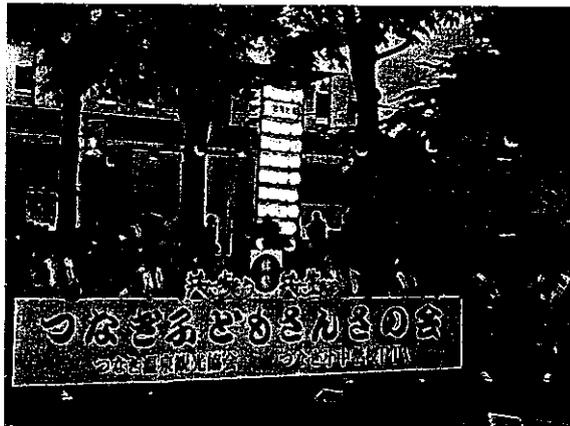
「御所湖まつりステージ発表」

### (2) 「つなぎ温泉観光協会」との連携

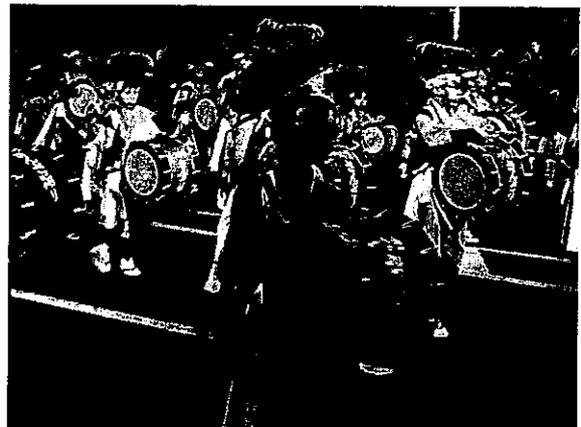
観光協会が主催する「御所湖まつり」には、昭和60年（第4回）から子どもみこしで参加，平成元年からさんさ太鼓により参加している。地区の子ども会が「御所湖まつり」後の清掃活動を行っていたり，子ども会活動への補助金を観光協会から援助いただいている。その他にも，子供達の作品の掲示や生徒会のポスター等を用いての呼びかけなど，普段から連携しながら地域の行事を盛り立てている。



「盛岡さんさ踊り出発式」



「盛岡さんさ踊り 公会堂前」



「盛岡さんさ踊り」

### (3) 「つなぎ温泉さんさの会」との連携

繋地区には「つなぎ温泉さんさの会」があり，郷土芸能「伝統さんさ」の継承を行っていた。昭和45年にはさんさ踊りのテープ収録，昭和54年には「つなぎ太鼓同好会」として「第2回盛岡さんさ踊り」に子どもを交えて出場している。昭和59年から現在の指導者が子供達への指導を始め，昭和60年の運動会での披露，昭和62年にはニッセイ財団等の助成を得て20個の子供用太鼓を備え，小学校4年生から中学校



「中学校着付け教室」

3年生までがさんさ太鼓の伝承活動に取り組んでいる。「御所湖まつり」や「盛岡さんさ踊り」への出演には、着付けを始め、様々な人手を要し「つなぎ温泉さんさの会」の方々には多くの支援をいただいている。

#### (4) 「放課後子ども教室」の取り組み

授業日の放課後には繫小学校の図書室を利用して開設している。安全管理員は9名登録されており、毎日交代で子供達の世話をしている。宿題や読書の他に、お絵かきや工作などの創作活動に熱中する子供もみられる。幼稚園との連携で、管理員の方が読み聞かせを行い、読書活動の推進に寄与している。幼稚園から中学生まで、異年齢集団の交流ができる場にもなっている。毎日のように参加して本を読み、バス待ち時間を過ごすなど、放課後の一時は、子供達

の安全な居場所として定着している。月末には「連絡会」を開き、子ども教室に通う子供の様子や翌月の運営について情報交換を行っている。

#### (5) 「御所湖の清流を守る会」との連携

昭和56年から「御所湖の清流を守る会」の呼びかけによる一斉清掃が行われている。小学生も中学生も時期を合わせ「ゴミゼロ運動」として空き缶やごみ拾いを実施する形で参加している。また、小学校では「御所湖の清流を守るポスター」や標語へ応募し、環境への意識を高める取り組みをしている。



「中学校着付け教室」



「放課後子ども教室 連絡会」



「放課後子ども教室」



「小学校530（ゴミゼロ）運動」

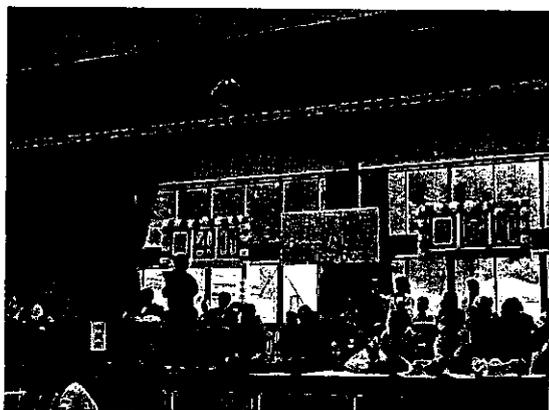


「中学校530（ゴミゼロ）運動」

繫地区には、温泉、手づくり村、漕艇場、乗り物広場等の多くの施設があり、県内外から観光客も多い。御所湖周辺の美しい景観の保全に子供達も積極的に協力している。

#### (6) 町内会との連携

平成12年より小中学校と共に「町内会運動会」を実施している。当初は町内会競技を午後開催としていたが、平成17年より小中学校合同の運動会の一部に地区競技を入れ実施している。その他にも8月15日の「町内会盆踊り」への「つなぎさんさ踊り」参加、町内会の統一清掃などにも保護者とともに子ども会も参加している。



「ステージ席も開放しての運動会」



「運動会 さんさ踊り」

#### (7) 老人大学や介護施設との交流

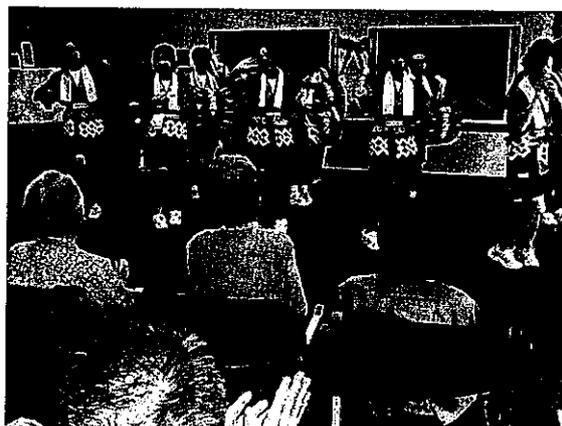
例年、老人大学との交流として「昔の遊び大会」を実施している。お手玉、おはじき、カルタ、あやとり、こま、けんだま、なわとび、竹とんぼなどの昔遊びについて道具作りから一緒に活動をし、終わりには会食をして交流している。町内会が主催する「長寿を祝う会」にも小学1年生がお祝いの言葉を述べ、子どもさんさも出演し交流を深めている。中学生は介護施設「法悦園」に出向いてさんさ踊りの披露と談話などによる交流を行っている。



「子どもさんさ 敬老会への参加」



「むかし遊び交流会」



「法悦園訪問」

## (8) 「少年消防クラブ」の活動

防火・防災意識を高めるために、児童・生徒は「少年消防クラブ」に加入している。小学校4年生以上の児童及び中学生で結成され、昭和58年から活動している。総会や避難訓練、夜間パトロールなど、盛岡市消防団第20分団の方からの指導を受けて活動を行っている。また、中学生は参加者全員が毎年AED操作研修を行う「救命救急講習」を受講しており、修了証の交付を受けている。小学生は「防火ポスターコンクール」に毎年応募している。



「救命救急講習」



「少年消防クラブ総会」

## (9) ボランティア活動

小学生から中学生まで、JRC活動への参加を行っている。「530（ゴミゼロ）運動」の実施や各種の募金活動などに取り組んでいる。中学生は、VS（ボランティア・サービス）タイムを設け、校内美化に取り組んでいる。また、中学校生徒会を中心とした「地区子ども会」では、冬季にスノーバスターズを結成し、冬休みの期間を利用して、地域の雪かきを実施している。



「児童会総会」



「生徒会被災地交流取り組み」



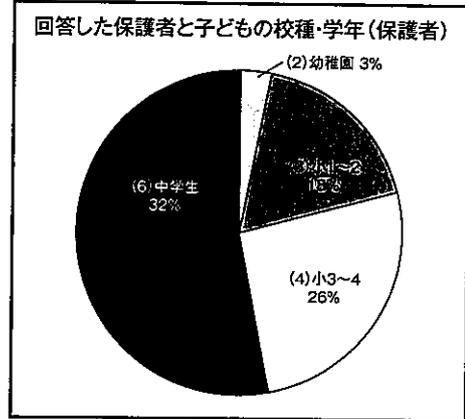
「生徒会被災地交流掲示を前にして」

## 2. 繫小中学校区での読書活動について

### (1) 小中学区での読書活動の実態（読書に関するアンケート）

#### ① 回答者（保護者32名，児童32名，生徒22名）

性別	保護者	小学校児童	中学校生徒
男	1	13	15
女	31	19	7
計	32	32	22

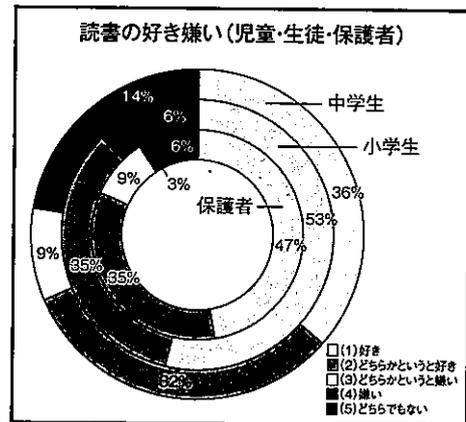


#### ② 読書に関する保護者と児童生徒の意識

##### ア 保護者・児童・生徒の「読書の好き嫌い」，「読書のよさや大切さ」

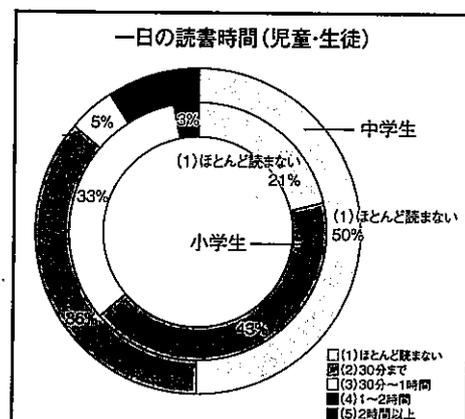
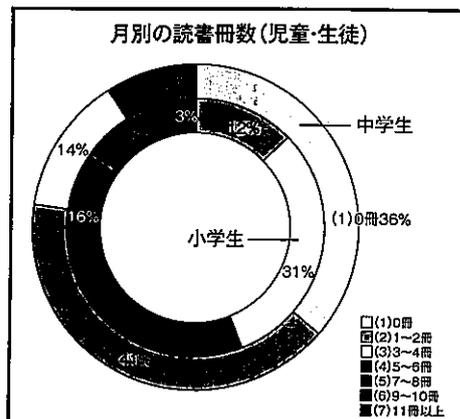
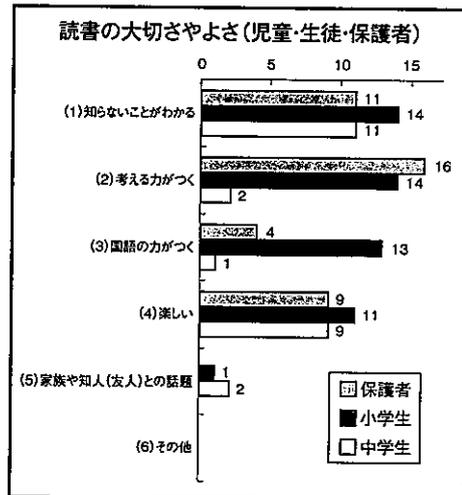
保護者，児童・生徒とも「好き，どちらかという」と「好き」が60%後半から80%後半以上を占めている。特に保護者は，読書について大切であるという認識を持っている。（「子どもが本を読むことは大切だと思う」97%）

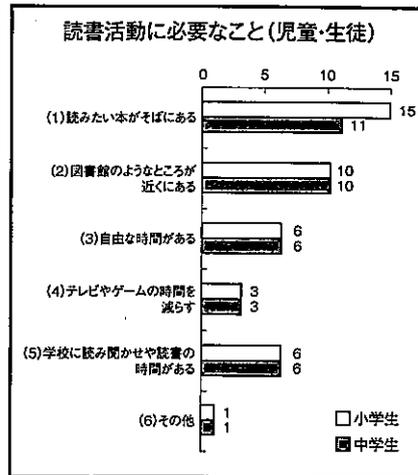
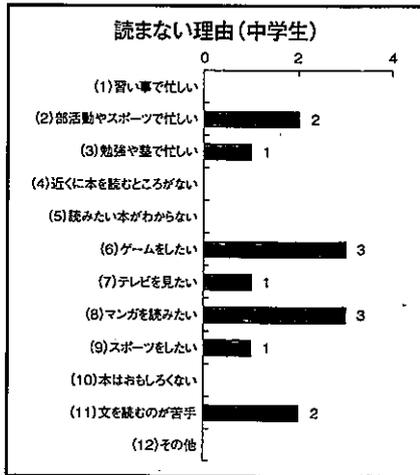
また，「読書のよさや大切さ」について，保護者は「知らないことがわかる，考える力がつく，楽しさ」について選び，知識や思考力に結びつくと考えている。小学生はそれに加え「国語の力」を上げ，読書に関する事柄全体に結びつくと考えている。中学生は「知らないことがわかる，楽しさ」を選び，知識や楽しさなど，比較的に直接感じやすい事柄をよさや大切さとして捉えている。



##### イ 「月別の読書冊数」「一日の読書時間」，「読まない（読めない）理由」，「読書活動に必要なこと」

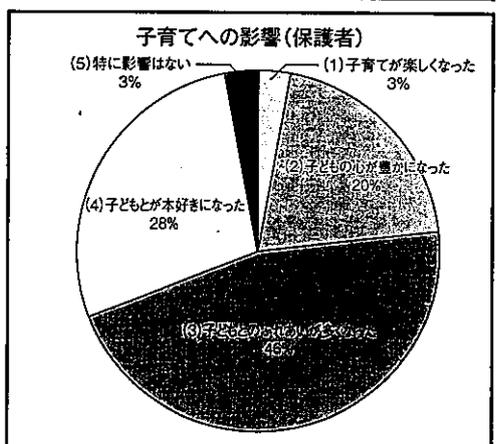
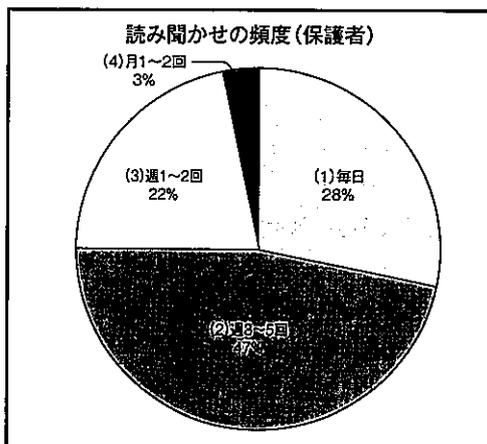
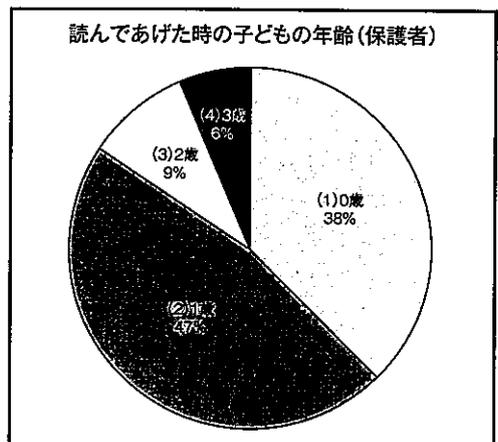
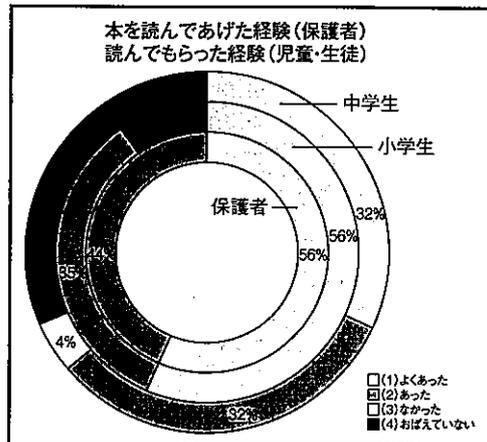
月別の読書冊数では，0冊と回答した中学生の割合が最も多く，一日の読書時間でも半数が「ほとんど読まない」状態である。読まない理由に，部活動の他，ゲーム，マンガ等を上げ，文章を読むのを苦手としている者もいる。「どのようにしたらもっと読むようになるか」について，本や図書館がそばにあるような環境，自由時間や読書時間などの確保が，小学生・中学生ともに読書活動へつながると考えている。



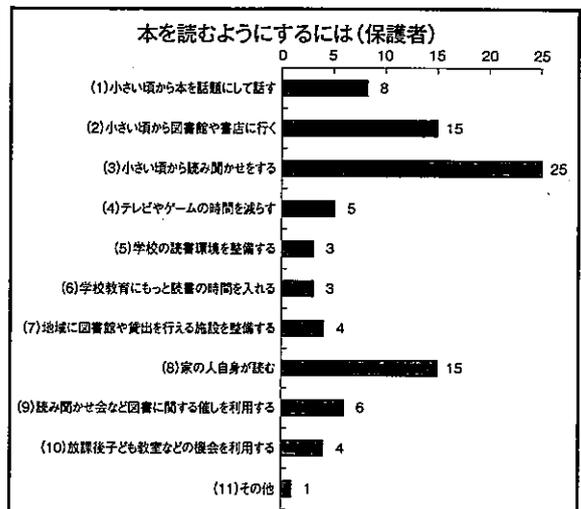


ウ 「読み聞かせ」(保護者・児童・生徒)の状況、保護者の読書についての意識について

回答した全ての家庭で、幼いころ(0歳35%, 1歳49%)からほぼ毎日のように(毎日29%, 週3~5時間45%)「読み聞かせ」を行っている。小学生・中学生とも読書が好き(小学生…好き54%, どちらかという好き34%, 中学生…好き34%, どちらかという好き32%)と答えている傾向があり、小学生と中学生の読書を好んでいる姿勢に影響を与えていると考える。



子育てへの影響について。「子育ての楽しさ」や「子どもとのふれ合い」に意義を認めており、「子どもが本を読むようにするには」という質問にも「読み聞かせ」や「家族が本を読む」といった家庭環境を整えることの必要性を大切に考えている傾向にある。



## エ 今後の課題

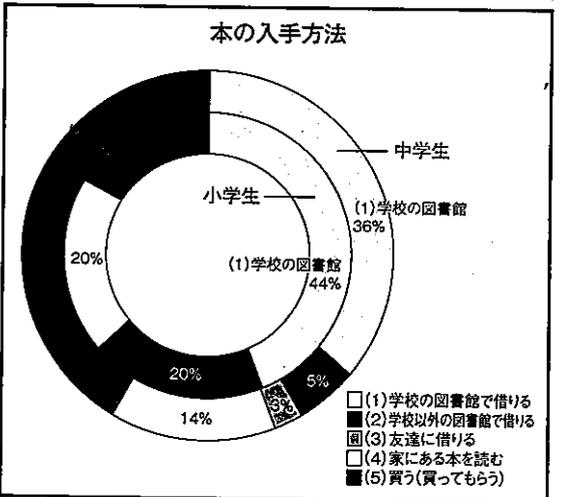
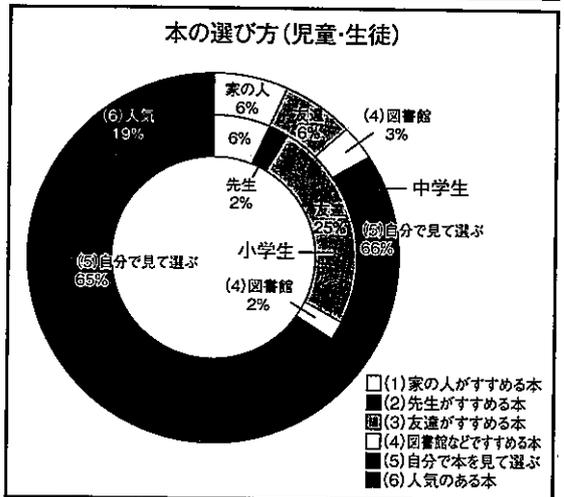
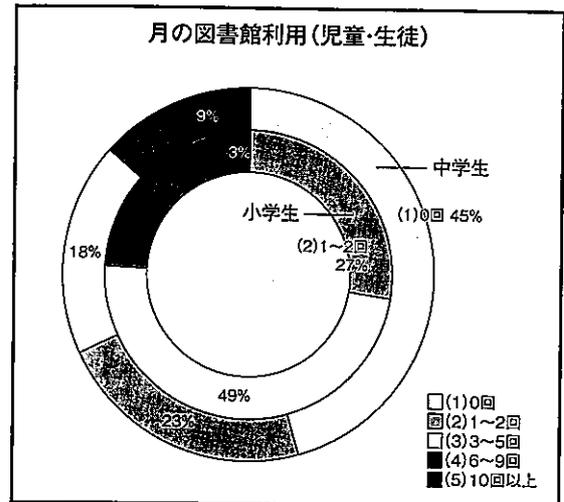
読む本の入手方法について、小学生も中学生も図書館や学校以外の図書館を利用している。しかし、月の図書室の利用の状況によれば、一冊も利用していない生徒もある。中学生になると自分で購入する場合も見られるが、「自分で本を選びたい（小中学生）」、また、「友だちが進める本を選ぶ（小学生）」、「人気のある本を読みたい（中学生）」という傾向にある。

中学生になると購入する割合も増えるが、部活動等で読書の時間も取れない状況で本を選び購入するよりも、身近にある図書館等の利用を促進させることが望ましいと考える。そのため、本に関する情報や新刊情報など、読書や本に関する情報が入手しやすい環境を一層整えていく必要がある。

各家庭では、幼い頃から読み聞かせを行っており、読み聞かせの必要性を認め、図書館の利用、家族が本に親しむ環境作りなどを充実させることが読書活動の促進になると期待している。

そういった家庭での読書に対する高い意識を背景に、各家庭や幼稚園、小学校、中学校で読書を通じたコミュニケーションを広げていくことが一層求められる。現在、図書ボランティアの方や中学校の授業で幼稚園に出かけ「読み聞かせ」を実施しているが、そのような家庭や地域、学校を結ぶ取り組みが一層大切になるものとする。家族や友人だけではなく、本や読書を通じた話題がきっかけとなり、世代を超えて関わり合うことを通して読書のすそ野を広げることにつながると考えられる。

今後は、幼稚園と小学校、小学校と中学校間の連携した取り組み、小中学校への図書ボランティアの導入、放課後こども教室による取り組みの工夫など、既存の施設である図書室利用の推進を図り、幅広い交流をもとにした読書活動の拡大について検討を加え進めていくことが望まれる。



「図書室利用の様子」



「幼稚園図書ボランティアによる読み聞かせ」



# 図書館だより

盛岡市立繫小学校

冬休み号

平成22年12月22日

## たくさん本を読んで、楽しい夏休みにしよう!

いよいよ冬休みです。この長い休みを利用して、さまざまな本を読んでみませんか。宿題が終わった後、暖かい部屋の中での読書はとても楽しいです。また、夜、「おうちの方々」などと一緒に読むのもよいですね。一緒に読んでおたがいに感想を教え合うと、読んだところがぐんと深まります。

読書には、好きなところをくり返し読む読み方と、たくさん本を読む読み方があります。自分にあった読み方で読むとよいですね。ある本を好きな人は、「好きな本をくり返し読んでいると、挿絵がないのにその場面が目に見えてきます。登場人物も話し出すんです。さらに色も付いて来るんです。」と話していました。なるほどと感心させられます。冬休みが終わった後、ステキな感想画文を楽しみにしています。そして、感想画文は図書館に掲示します。

### 冬休みの読書～毎日読書しよう～

学年	読書時間のめやす	読書カード
1・2年	毎日 15 分以上	図書委員会から専用の用紙を配布します。
3～6年	毎日 30 分以上	



<図書館まつりで藤本美智さんの読み聞かせ>

## 2学期の図書館利用合計769冊

～読書王は2年生の高橋佑奈さん! なんと54冊～

2学期の図書館利用は次の通りでした。2学期、藤本美智さん等からの寄贈図書が15冊ありました。3学期には読めます。楽しみにして下さい。

学級(人数)	合計読書冊数	学級の一人あたりの平均
1年(3人)	106冊	35.3冊
2年(7人)	298冊	42.6冊
3・4年(14人)	357冊	25.5冊
5・6年(11人)	98冊	8.9冊

### ウ 成果と課題

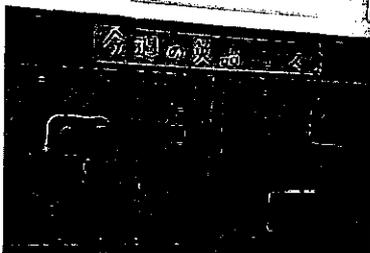
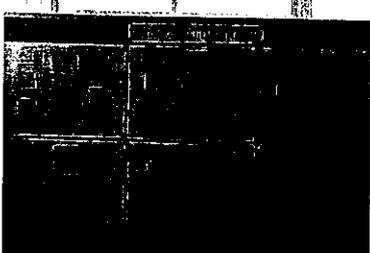
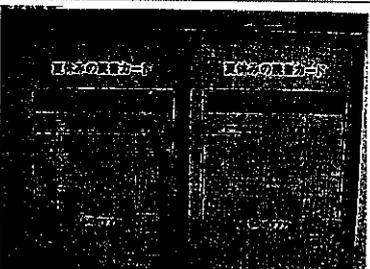
多数の新刊図書と使いやすい新しいカードなどで、図書室へ足を運ぶ児童は増えつつある。また、11月には「図書館祭り」もある。そこで、今年度後半の活動をさらに盛り上げることで、児童の読書活動を高めていきたい。

② 繫中学校生徒会の取り組み

繫中学校では、「読書を通し様々な考え方・生き方などを学ぼう」というねらいのもと、8時15分から8時25分までの10分間、定期的に「朝読書」を行っています。静かに落ち着いた雰囲気でのスタートを切れるというのは何よりです。その他、読書活動活性化に向けての様々な取り組みを紹介します。

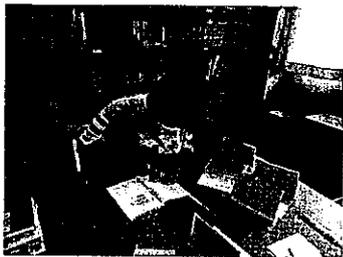
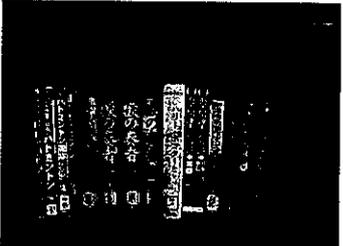
ア 実践事例

(a) 【生徒会執行部の取り組み】

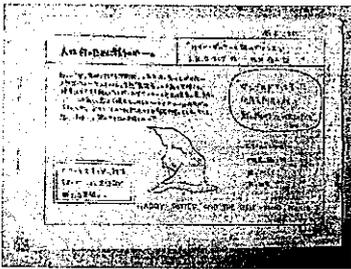
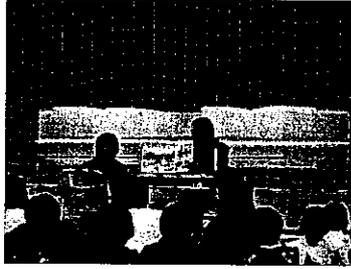
<p>新聞コーナー(今週の英語ニュース)</p>  <p>「岩手日報(土曜日版)」の「今週の英語ニュース」を掲示しています。</p>	<p>新聞コーナー(なぜなに?)</p>  <p>岩手日報(土曜日版)の「ニュースなぜなに?」を掲示しています。</p>
<p>新聞による「おすすめ図書」コーナー</p>  <p>「岩手日報」や「中学生ウイークリー」の「おすすめ図書」の記事を掲示しています。</p>	<p>夏休みの「読書カード」</p>  <p>夏休みの「読書カード」を廊下に掲示しています。冬休み後も実施する予定です。</p>

(b) 【文化委員会の取り組み】

<p>生徒朝会での「おすすめ図書」の紹介</p>  <p>委員長はじめ、文化委員5名が、それぞれの「おすすめ図書」を紹介しました。</p>	<p>全校朝会にて「寄贈図書」の紹介</p>  <p>文化委員長が、「田畑ヨシ」さんからの寄贈図書を紹介しました。</p>
<p>朝読書の様子</p> 	<p>「読書記録カード」の掲示作業</p> 

<p>静かな時間が流れます…。</p> <p>新刊図書の受け入れ作業</p>  <p>委員会の時間に、それぞれ分担して作業を進めます。</p>	<p>朝読書の「記録カード」を文化委員が掲示します。</p> <p>新刊図書のコーナー</p>  <p>図書室前の廊下にある書棚に、新刊図書を並べて紹介します。</p>
<p>学級文庫</p>  <p>定期的に入れ替えます。</p>	<p>「おすすめ図書」の紹介</p>  <p>図書室前の廊下に掲示します。</p>

(c) 【その他】

<p>昼休みの図書室利用の様子</p>  <p>それぞれが興味を持った本を手に取り、静かに本の世界にひたります。</p>	<p>幼稚園での絵本の読み聞かせ (家庭科の保育実習にて)</p>  <p>毎年3年生が、自分たちがお世話になった繋幼稚園で絵本の読み聞かせをします。</p>
<p>国語の授業で作成した「おすすめ図書」の紹介文</p>  <p>これは「ハリー・ポッターと謎のプリンス」の紹介文です。</p>	<p>田畑ヨシさんによる紙芝居「つなみ」の読み聞かせ</p>  <p>田畑さん自身が被災された昭和三陸大津波の体験を紙芝居として継承しているものです。</p>

イ 成果と課題

毎朝早くから図書室を訪れ読書する生徒、昼休みに毎日図書室を利用する生徒、すき間の時間も有効活用し本を手にとる生徒、階段の踊り場に掲示されている新聞に興味を持ち目を通す生徒など、確実に読書好きな生徒が増えてきています。「心が豊かになる」「知識が増える」「想像力や思考力

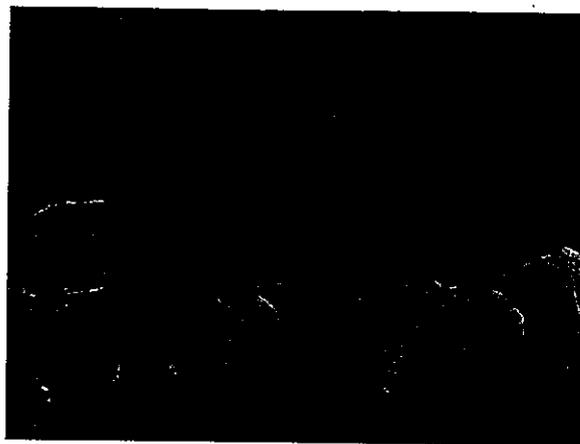
### 3 本年度の小学校・中学校の取り組みから（震災への取り組み）

#### (1) 「家庭教育学級」における震災への取り組み

P T A家庭教育学級では、「津波てんでんこ」の精神を紙芝居にして子供達へ語り継いでいる田畑ヨシ氏を講師に招き講演会を行いました。田畑氏は大正14年、宮古市田老に生まれ、昭和三陸大津波に8歳の時に遭遇、今年3月に再び東日本大震災に見舞われましたが、高台にある妹さんのお宅へ避難し命を取りとめました。

講演会では、田畑氏から紙芝居を朗読していただき、滝沢村に嫁いでいる娘さんの高橋氏から、今回の震災の事を経てのお話がありました。田畑氏が詠んだ「海嘯（つなみ）鎮魂の詩」がサスライメイカーという3人組のJポップバンドによりCD化されるということで、その歌も披露されました。

P T A会員の他に小学生、中学生、地域の方など約70名が参加していた会場は、「つなみ」紙芝居に静かに聞き入り、講師の一言一言に大きくなずき、歌詞とメロディに涙を誘われ、これからの私たちや子供達のために、得難い貴重なお話をいただいた価値ある講演会となりました。



「田畑ヨシ氏による紙芝居『つなみ』朗読」

#### 「紙芝居『つなみ』の感想」

中2年 大鷲 里海

今日は、田畑ヨシさんとその娘さんに来ていただき、お話や歌、紙芝居を聞かせていただきました。紙芝居では、ヨシさんの書いたお話を読んでくださいました。おじいさんの言い伝えなども描かれていたので、お年寄りの話の大切さが分かりました。

ヨシさんの娘さんのお話でも、津波を通して味わった恐怖やおじいさんの気持ちが伝わってきました。娘さんの言った「人は自然災害には敵わない。」という言葉が心に残りました。いくら人間が一生懸命作った建物でも津波は全部壊すほどの力を持っていて、人が左右できない問題なので、そのとおりだと思いました。あと、ヨシさんの言った「お年寄りの言葉は大切に！」と力強く残した言葉も心に残りました。

津波は、私にとってまだTVの世界です。体験した人の恐怖は、今の私には計りきれないものだと思います。だけど、私は今回、実際に津波を体験した方に津波を教えてもらえたとし、対処法も教わることができました。これから、今日来た人全員が、この話をいろいろな人に伝えていくことができるなら、いつ来るかわからないけど、次の津波に助かる人が一人でも多くなる可能性増えると思います。今日学んだことは、津波は止められないけど、人の知恵は人を助けてくれるということです。

#### 「紙芝居『つなみ』の感想」

中2年 山本 夏翠

今日の「つなみ」の紙芝居では、あらためて津波の恐ろしさを感じました。

東日本大震災があり、岩手県の沿岸も多大な被害を受けましたが、私は内陸に住んでいるし、津波の被害もテレビでしか見たことがなかったので、「津波はこわいし、津波によって大変な被害を受けている」とはわかっていたものの、よく実感がわかない感じでした。でも、今日の紙芝居を聞いて津波の恐ろしさというものがリアルにわかったし、「今、私に何ができるのだろうか？」と考えるようになりました。

今日の「つなみ」の話聞いて、津波の恐ろしさをあらためて感じました。ヨシさんが伝えたかったことをしっかり受け止め、伝承していきたいです。

## (2) 音楽の授業を通しての交流

震災により繋温泉の宿泊施設に一時避難していた釜石市の杵屋弥多穂（鈴木絹子）氏とそのお弟子さん方から、中学生に三味線の授業をしていただきました。震災からの避難によりお孫さんが繋小学校に転校していたことから、お礼にできることがあればと音楽の和楽器を題材にした単元で急遽実施しました。授業の中では、「自らの震災の体験に触れ、三味線を弾くことから心に明るさを取り戻したこと」もお話いただきました。自分のより所となる「ライフワークや目標を持つこと」の大切さを生徒達に教えていただきました。



「杵屋弥多穂氏による三味線授業」

### 「三味線の授業の感想」

中3年 高橋 英樹

最初、三味線は難しいというイメージを持っていて、たった2時間の授業ではできないと思っていました。鈴木先生をお招きして教えていただき、先生の教え方がとても上手で分りやすかったです。おかげで「さくら」を弾けるようになりました。その後、先生方に弾いていただいた曲はとても迫力があり感動しました。鈴木先生、他の一同の皆さん本当にありがとうございました。

### 「三味線の授業の感想」

中3年 竹花 優伽

今回、三味線を教えてくださると聞き、とても楽しみにしていました。三味線は、生で見るともふれてみるのも初めてだったので、とても新鮮でした。いざ弾いてみると左手の移動やバチで一本弾くのはとても難しかったです。皆で「さくら」を演奏しましたが、三味線の楽譜を見たのも初めてだったので、かなり難しかったです。難しい部分もたくさんありましたが、先生方に細かな部分も教えていただき、楽しく弾くことができました。最後の先生方の演技はとても迫力があり、感動しました。今回の授業は、2時間でしたがとても短く感じました。とても楽しかったです。今まで経験したことのない貴重な体験でした。この度は三味線の授業を実施していただきありがとうございました。



## ② (事例2) お見舞いへの返礼

年度当初からPTAが中心となって、被災者の方々への救援物資を募集しました。

4月18日、繫地区への一時避難をしているの方々へ、その後、宮古市立愛宕小学校の皆さんへお見舞いの物資をお届けしました。釜石市から繫小学校へ転入した4名の児童(1年生女子、2年生男子、3年生男子、4年生女子各1名ずつ)は、友だちや繫地域の皆さんから届けられた学用品等で、楽しそうに学校生活を送りました。



宮古市立愛宕小学校から  
のお礼の寄せ書き  
<写真 5>

また、すっかり繫の子どもたちと仲良くなったとなった4名は、運動会や「530運動」など諸行事で繫の子と見分けが付かなくなるほどでした。



運動会練習 繫の子どもたちと応援練習  
<写真 6>



運動会 <写真 7>



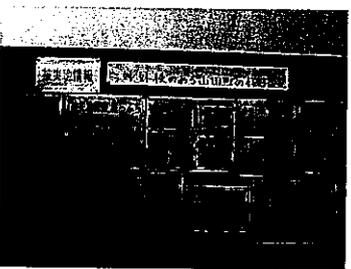
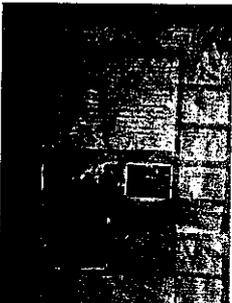
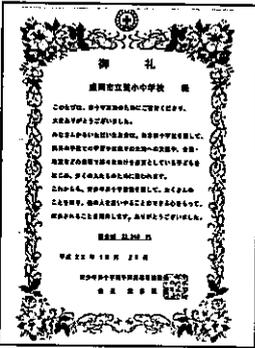
「530運動」 <写真 8>

## ③ 成果と課題

転入児童や愛宕小学校と交流することができ、繫小学校の児童も「自分も何かできた」という満足感を持っています。しかし、これで終わったのではない。復興達成まで、これからどのような支援が良いのか、子どもたちと考え活動を継続していきたい。

(4) 繫中学校生徒会の取り組み

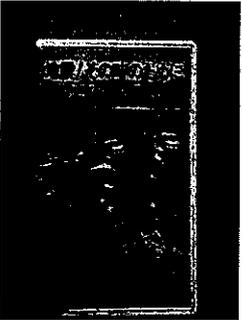
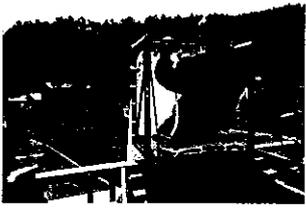
① 【姉妹校（山田町立山田中学校）への支援活動】

<p>山田中学校への 義援金活動 (4/19~22)</p>  <p>挨拶運動と平行し、義援金活動を行いました。</p>	<p>被災地へのメッセ ージ作成(夏休み 中)</p>  <p>「共に歩もう 共に生きよう」というメッセージの看板を、生徒会執行部が製作しました。</p>
<p>「盛岡さんさ踊り」 出演 (8/4)</p>  <p>被災地へのメッセージの看板を横断幕に取り付け、力いっぱい繫伝統さんさを踊りました。</p>	<p>被災地情報 ～姉妹校のある 山田町の様子～ (3月～)</p>  <p>山田町の様子がどうなっているのか、生徒会執行部が毎日新聞で確認し、記事を掲示しています。</p>
<p>山田中へのメッセージ(表)</p> <p>生徒一人一人が書いた メッセージを模造紙に 貼り、山田中学校に送り ました。</p> 	<p>山田中へのメッセージ(裏)</p> <p>「山田中学校と手を繋ぎ、 支えよう」という思いで、 生徒一人一人、自分の手形 をつけました。</p> 
<p>挨拶運動と平行し てのJRC募金活動 (9/26~30)</p>  <p>この時のために、毎日コツコツ小銭をためていた生徒たちもいました。感激…。</p>	<p>「青少年赤十字岩手県 指導者協議会」からの お礼状(昨年度)</p>  <p>昨年度は、23,248円 集まりました。</p>

JRCの募金活動については、毎年繫小学校児童会執行部と繫中学校生徒会執行部が合同で取り組み、繫地区内の各施設にも協力していただいています。今年も8月19日～10月13日まで、各施設に募金箱を設置させていただきました。集まったお金は、台風や地震などの災害で助けを必要としている人たちに役立てられるということなので、被災地の復興を願い意欲的に活動しました。私たちが、支援の手立てとしてできることは限られています。しかし一番大切なのは、「被災地の復興を願う気持ちを持ち続けること」だと思います。私たちはこれからも被災地の様子を気にかけて、その都度「今何ができるか」を考え実行していきたいと思っています。

② 【防災意識を高めるための取り組み】

姉妹校への支援活動と共に、学校や家庭において、自分たち自身震災への対応策をきちんと練っておくことも大事です。私たちは、防災意識を高めるための様々な活動にも積極的に参加しています。

<p>避難訓練(5/2)</p>  <p>地震を想定した避難訓練が行われました。</p>	<p>VS活動 (毎月1日)</p>  <p>普段掃除が行き届かない所の清掃や、安全点検等を行っています。</p>
<p>少年消防クラブの 総会 (7/11)</p>  <p>防火等についての講話を聞いたり、宣誓をしたりしました。総会は毎年行われます。</p>	<p>救急救命講習会 (7/11)</p>  <p>「心肺蘇生法」や「AEDを使っのの實習」が行われました。講習会は毎年行われます。</p>
<p>ビデオ「地震！その時のために」による学習</p>  <p>「家庭における地震対策」について学習し、防災意識を高めることができました。</p>	<p>避難訓練(10/5)</p>  <p>避難器具を使っのの訓練が行われました。生徒達は、ドキドキしながら順番を待っていました。</p>

～「地震！その時のために」の生徒の感想～

ビデオを見て僕は、地震で家具などが倒れないように固定したり、食料や救急箱などを準備したりしておかなければならないなと思いました。そして、第一に自分や周りの人の命を守るように、あらかじめある程度のスペースや身を守るスペースを確保しておかなければならないと改めて思いました。また、地震はいつ起こるか分からないので、常日頃から臨機応変に冷静に行動できるよう心がけたいです。今回ビデオを見て、地震への対応策がたくさん分かったので良かったです。

ビデオを見て、家の中でも危険がたくさんあることや、備えについて学びました。3月11日のあの予想もしていなかった大地震からもう半年経ちますが、あの日のことは良く覚えています。地震がなかなかおさまらず、不安でした。家でもたくさん物が落ちました。今日ビデオを見て、タンスや食器棚等をきちんと固定することや、水や食料を備えておくことが大切だと分かりました。また、家族で話し合い、いろいろ決めておいた方が良いということも学びました。またあの日のような大きな地震がおきても、ビデオで学んだことを生かし、焦らず落ち着いて行動したいと思います。



【資料1】



1. 拍子木を鳴らし夜間防火パトロール
2. いざというときに備えて初期消火訓練
3. AEDトレーナーを使った救命講習
4. 表彰式で表彰状を受け取る藤本和希君
5. 繫地区少年消防クラブの皆さん

繫地区少年消防クラブ  
地域ぐるみの防火活動で全国表彰

「火の用心、マッチ一本火事のもと」と元気づく火災予防を呼び掛ける子どもたち。繫地区少年消防クラブは、長年にわたる地域ぐるみの防火活動が認められ、19年度シルバー消太賞を受賞しました。これは消防庁などで構成する全国少年消防クラブ運営指導協議会が主催するもので、本市では昨年度のみどり学園少年消防クラブに続く、名誉ある全国表彰です。

同消防クラブは昭和59年に結成。繫地区の小学4年から中学3年までの51人（平成20年3月31日現在）が活動しています。火災予防を啓発する夜間防火パトロールや初期消火訓練、救命講習、防火ポスター作成など、一年を通じて地域の大人たちと一緒にさまざまな活動を展開。地域ぐるみの活動によって繫地区では防火意識が高まり、平成19年の火災はわずか2件、14年から18年までの5年間にいたっては火災件数ゼロという功績を果たしました。

3月28日、東京都の総務省消防庁で開催された表彰式に出席した藤本和希君（繫中3年）は「地域の皆さんと協力して繫地区から火災を出さないように頑張りたい」とこれからの抱負を述べました。

広報もりおか  
「もりおかキラキッズ」  
(2008年4月15日)

御所湖ニュース

No.244

平成23年6月15日



発行 御所湖の清流を守る会

盛岡市繫山山根192-4 (御所湖管理所)  
TEL 019-689-2216  
FAX 019-689-2271



春の統一清掃に700人  
これからも清流のある住みよい地域に  
これからも綺麗に御所湖を守ろう

御所湖周辺の盛岡市・磐石町の子供会、婦人会、老人クラブ等の団体や地域住民と、御所湖の清流を守る会の会員、総勢約700名という大勢の方の参加により、6月5日(日)快晴のもと、御所湖周辺において春の御所湖周辺統一清掃が行われました。

清掃作業に先立ち、繫地区のシオン広場では開会式を開催し、当会の高橋会長からは「今回の震災により御所湖周辺へ一時避難されている方から、こんな綺麗な湖は見たことが無い、是非住んでみたい場所だ。との声が多数あります。日頃からの当会へのご協力と清掃活動へ改めて感謝いたします。」と挨拶がありました。

清掃終了後には参加者の方々が、大きなゴミ袋いっぱい回収してきたのを見て、地元の方の清流を守る意識の高さを改めて実感しました。みなさまのご協力、本当にありがとうございました。今後とも御所湖の清流を守る活動にご協力お願いします。



御所湖ニュース  
「御所湖の清掃活動」  
(2011年6月15日)

繫小中学校も御所周辺の清掃活動を実施

5月30日に繫小学校児童36名と、6月1日には繫中学校児童24名が、毎年行っている授業の一環として周辺の清掃活動を行いました。この活動により多くのゴミが集まり、御所湖周辺がさらに綺麗になりました。

繫小中学校の皆様、ありがとうございました。



不法投棄が増えています！

23年度 免野湿地周辺には、大量のタイヤやTV等の不法棄が発見されています。きれいな御所湖を







あ い さ つ

繫小中学校区教育振興協議会長

徳田卓也

ご来賓の皆様、各学区の皆様、盛岡市教育振興運動第I地区集会にご参加をいただき誠にありがとうございました。

さて、本宮小学校区と繫小中学校区では盛岡市教育振興運動のサブテーマである「じっくり読書」を受け、読書を共通のテーマとして今回の発表に取り組んでまいりました。子供たちには、「読書を通じて心豊かに育ってほしい」、「読書の楽しさを知ってほしい」という思いは、皆様お持ちのことと思います。この思いをどのように実践していけばよいのか、今回の発表に取り組むなかで改めて考えさせられました。学校・家庭・地域が連携して子供たちを育てていかなければいけません。読書については、「家庭・地域、特に地域がどのようにかかわっていけばよいのか」具体的に実践できておらず、この点が繫小中学校区の課題だと考えています。様々な課題を克服するための意見交換の場として、今回の集会が活かされればと考えております。

3月11日に発生した「東日本大震災」により岩手県も甚大な被害を受けました。全国や世界各国から多くの支援が寄せられ、人の心の温かさを感じさせられましたし、「自分にも何かできる支援はないか」と多くの方が考えたのであろうと思います。被災地の子供たちが震災以前のような生活にもどるにはまだまだ時間がかかりますし、当然ですが支援も長い期間必要です。

「何かをしなくては」という気持ちを具体的な支援として、被災地の子供たちに届けましょう。支援の仕方もあると思います。どのような支援ができるのかみんなで考えていきましょう。

